

## 第 20 回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議要旨

日 時：平成28年 5 月24日（火） 15:00～17:00

場 所：横須賀市役所 3 階会議室B

出席委員：高橋弘二座長、鈴木副座長、市下構成員、稲構成員、内船構成員、  
桐谷構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、橘構成員、野崎構成員、  
森構成員、吉田松子構成員、米田構成員、（計13名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、大場、山中）

傍聴：なし

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 報告

- （1）平成 28 年度教員向け環境学習講座について
- （2）環境教育・環境学習マスタープランの年次報告書について
- （3）環境ポスターコンクール協賛企業に対するアンケートについて

#### 3 議題

- （1）平成 28 年度のよこすかE C O通信の記事について
- （2）「施策別推進事業一覧」について
- （3）平成 28 年度活動者向け人材育成講座について

#### 4 その他

- （1）事務連絡

### ◆報告 1 平成 28 年度教員向け環境学習講座について

[要旨]

今年度も、小・中学校の教員を対象とした環境学習講座を開催する。場所は天神島臨海自然教育園で、「天神島大冒険！—50 周年の天神島を学ぶ—」をテーマとし、講師は、自然・人文博物館の学芸員に依頼する。構成員も参加できるので、別途お知らせする。

### 高橋座長

ただ今の報告に対してご意見、ご質問がありましたらお願いします。

会場が「天神島臨海自然教育園」となっているが、講義などを行うことを考えると天神島ビジターセンターがよろしいかと思うが、内船構成員いかがか。

### 内船構成員

天神島ビジターセンターは天神島臨海自然教育園の中の施設になります。

### 高橋座長

天神島臨海自然教育園の中に天神島ビジターセンターがあるということか。

### 内船構成員

はい。その通りです。参加者に詳しい案内をするときに、集合場所を天神島ビジターセンターに指定することで良いかと思う。

### 高橋座長

はい、わかりました。では、よろしく願いいたします。

では、報告2をお願いいたします。

#### ◆報告2 環境教育・環境学習マスタープランの年次報告書について

[要旨]

昨年度見直しした環境教育・環境学習マスタープランの施策の方向に沿って、環境基本計画年次報告書をベースに年次報告書を作成した。環境教育・環境学習マスタープランの年次報告書は、環境基本計画年次報告書の中で公表するとなっているが、わかりにくいため取りまとめた。

### 高橋座長

今の報告に対し、ご質問がありましたらお願いします。

ないようなので、報告3をお願いいたします。

#### ◆報告3 環境ポスターコンクール協賛企業に対するアンケートについて

[要旨]

事業者による環境教育・環境学習に関する取り組みの情報収集を目的として、環境ポスターコンクール協賛企業にアンケートを実施した。19社中4社から取り組みについて回答があった。

### 高橋座長

今の報告に対し、質問や確認事項がありましたらお願いします。

また、今までの3つの報告に対し、質問やご意見がありましたらお願いします。

## 野崎構成員

環境ポスターコンクールの協賛企業ですが、市はどのような方法で協賛企業を募っているのか。

## 小澤課長（事務局）

基本的には、昨年度協賛していただいた企業に意向を確認している。その協賛企業から知り合いの企業を紹介していただくこともあるが、基本的には企業から意思表示をしていただきをお願いしている。現在協賛企業は19社あり、毎年1月の環境フォーラムでポスターコンクールの表彰式を行っているが、協賛企業が多いと時間もかかる。協賛企業が多いのは有難いが、表彰式の問題もあるので今のところ適当かと思っている。これ以上積極的に増やすということは考えていない。

## 高橋座長

ポスターコンクールで協賛企業賞はどのように決めているのですか。

## 笠原主査（事務局）

まずは、最優秀賞を決定します。お手元にあるマスタープランの表紙を飾っている作品が、平成27年度の最優秀賞、市長賞になる。こちらは、協賛企業の方と、環境政策部長、環境企画課長が選考委員となり、1人3票で、一番投票の多い作品に決定します。それ以外はドラフト制で、企業の方の一番良いものを選んでいただく。重なったところは抽選となり、重ならなかったところはその企業の賞となる。選考会には企業の方にお越しいただくが、作品数が多いので、ある程度は事前に選択し、50作品の中から選んでいただいている。

## 高橋座長

抽選になる割合はどのくらいか。

## 笠原主査（事務局）

全くない年もあったが、例年2、3作品が抽選になっている。

## 高橋座長

外れた企業はそれ以外から選ぶのか。

## 笠原主査（事務局）

2順目は、1順で決まった作品を除いた作品の中から選ぶ。最初に時間を使って作品をご覧いただき、何作品かを順位を決めていただいている。

## 高橋座長

ありがとうございました。他に何かございますか。

では、報告に対しての質問はないので、議題に移ります。

### ◆議題1 平成28年度のよこすかE C O通信の記事について

[要旨]

平成23年度から年4回発行している環境情報紙「よこすかE C O通信」について、平成28年度の表紙テーマと活動団体紹介等の記事の内容を議論する。

## 高橋座長

ただ今説明がありましたが、「E C O通信」は表紙の上部に記載しているとおり、発行は横須賀市と環境教育・環境学習ネットワーク会議になっている。この会議で発行をしているので、皆さまのご意見を記事に反映すべく、ここで議論していただきたいと思います。第1面、3面に対してご意見をお願いします。21号はここまでできており、6月は環境月間でタイムリーなのでこれはこのままとのことで、これ以降の22号から24号について、他のテーマがいいなどの意見がありましたらお願いします。

## 鈴木構成員

企業の環境活動の紹介ですが、報告3（資料2）のアンケートを回答している企業は「イオンリテール」、「電力中央研究所」、「トライアングル」と当社（東芝ライテック）の4社。今回の21号は当社が掲載されているが、残りの3社に関しては、次の号になるのか。

## 笠原主査（事務局）

今のところ、いただいている情報は残りこの3社。まずはこの3社から回答いただいているので、事情を説明し記事の確認をしたい。アンケートというレベルでご協力いただいたので、ポスターコンクールの協賛企業の方も、「そう言われてみれば、活動を行っている」という企業もあると思う。10月にポスターコンクールの選考会を行うので、その時にE C O通信への掲載を紹介させていただき、また更に追加の情報があればそこで収集したいと考えている。まずは、こちらと繋がりのある企業に声を掛け、なるべく情報をいただきながら、情報がなくなる前に次はどうするかを考えていく。今のところは協賛企業に声を掛けながら、アンケートに回答いただいた4社の情報を掲載することを考えている。

## 野崎構成員

企業の環境活動を紹介するのは、とてもいいと思う。一般の市民の活動団体としても情報が欲しいので続けていただきたいと思う。先程のポスターコンクールの協賛企業もそう

だが、いつも協賛してくれる企業は大事な関係だと思うが、まだまだ協賛して下さったり、あるいは環境活動自体を行っているところがたくさんあると思う。そういうところを知る方法や機会を増やすことはとても良いと思う。市民活動団体の立場から言うと、自分たちの活動範囲の中や近くに実際環境活動を行っているところや志しているところがあるのを知るのは心強い。例えば、「蝶の博物館」のサガミガスなどは、しっかり地元で活動しているようなので、その紹介もしていただけるといいと思う。何らかのかたちで呼び掛けるともっと数が増えると思う。

### 小澤課長（事務局）

先程、協賛企業数に関して申したが、新しく開拓するのも1つかなと思う。サガミさんは前に一度協賛していただいており、間が空いてしまったが、今回また協賛したいとの声を掛けていただき、今年度は参加いただく。このような取り組みがあることをPRし、なるべく多くの企業に依頼していきたい。作品数約500の中からの20作品なので、選に漏れた方も多いので賞を増やすのも必要かと思う。今後、検討課題としていきたい。

### 高橋正明構成員

6月号については企業が1社で、「環境ポスターコンクールについて」の説明が載っている。今後はこのスペースは広がることになるのか。広がるなら2社載せることもできる。1社なら19社で年4回発行となると、一回りするのには5年かかる。結構時間がかかるのではないかと思う。または、このスペースは使う予定があるのか。

### 笠原主査（事務局）

企業のスペースは均等になるようにバランスを考え、次号は「環境ポスターコンクールについて」の説明がなくなるので、2社は載せられる紙面割になる。また、19社全て掲載するのかというと、環境活動の面で見たとときに、企業がここまでの記事になる内容はないという場合もあると思うので、まずは4社を掲載し、その後19社（実際は残りの15社）に確認後、掲載となればいい。ECO大賞受賞団体の掲載は4団体なので、次号で終わりになる。次々号は紙面構成を変えて企業3社を載せることは可能だと思う。さすがに5年となると意味がないので、19社全てを載せなければならないとなったときには紙面構成を見直さないといけないと思う。記事の面積は今回の記事スペースを基準にしながら紙面構成を整えていく。

### 高橋正明構成員

載せる企業が増えるとなると、野崎構成員から提案があったように、環境ポスターコンクール以外の企業も特出するような企業があれば、年に1、2社くらいはここに載せるアイデアも出てくると思う。それを含めて紙面構成や載せる企業を検討していただくと幅

が広くなると思う。その辺りも念頭において検討してほしい。

### **笠原主査（事務局）**

企業の皆さんに直接説明できるのは選考会の時になるので、選考会でお願いしたときの反応がどれだけあるかにより、残り 15 社も載せるときには、一つの案として特別号として企業紹介を 1 枚挟む考え方もあると思う。環境ポスターコンクールの協賛企業として「東芝ライテック」様ももう一度載せることもあるかと思う。今のところ 4 社しかないので、このような紙面割になっている。声掛けをした結果によっては紙面割を工夫しなければいけないと思う。

### **野崎構成員**

E C O 通信で紹介されたということで企業にとっても何らかのかたちでメリットになるような、例えば、環境に配慮した企業ということで意義がある、それが大事ということが市民や消費者に伝わるのが企業にとっても見返りがあるというように企業が感じていただけると、E C O 通信の効果が出てくると思う。そういうものになることを考えないといけないのではと感じた。

### **高橋座長**

他にご意見はありますか。

企業の紹介がありました。市民活動団体の紹介は資料 3-2 を見ると、2012、2013 年に集中してあり、それ以降掲載されていない。後は行事予定が入っている。スペースに限りがあると思うが、この辺りはいかがですか。事務局としては当面は企業の紹介で、市民活動団体はここにしばらくは入ってこないということによろしいか。

### **笠原主査（事務局）**

今年度の予定はその通りになる。企業の情報を発信していくこととイベントの掲載、活動団体の主なところは、今年は E C O 大賞の受賞団体があります。活動している他の団体のことを紹介することも大事なので、こちらの紙面を利用するか、左側のイベントの案内で活動団体自体を紹介する方法も一つあると思うが、多くの人に参加して欲しいのでイベントをメインに周知したい。こちらのイベントは、色々庁内にも声を掛けながら情報を収集していきたい。

### **高橋正明構成員**

E C O 大賞の受賞団体の紹介は市民団体の紹介になるのかと思う。E C O 大賞は 2 年に一度なので、来年はこのスペースが空くので、そこに市民団体を紹介する配置もできるかと思う。そこを活用していけばある程度の団体の紹介もできると思う。

**高橋座長**

E C O大賞は後、学校がありますね。

**笠原主査（事務局）**

はい。

**高橋座長**

E C O大賞は2年に一回ですね。

**高橋正明構成員**

E C O大賞のないときは、そこにスペースができるのかと思う。

**高橋座長**

今年度はE C O大賞の受賞団体と企業の環境活動に対する紹介を載せていくということで、来年度考えるときは市民活動団体を考慮するという事によろしいか。

**米田構成員**

受賞した小学校は入らないのか。

**笠原主査（事務局）**

武山小学校は次号に載ります。次号に載るとは書いていないが、次号は武山小学校と追浜中学校の予定です。

**高橋座長**

スペースを作り予告を入れた方が良いでしょう。

では次の議題に移ります。

◆議題2 「施策別推進事業一覧」について

[要旨]

平成28年度から新たに作成する「施策別推進事業一覧」について、作成方法、一覧イメージ、作成スケジュールについて議論する。

**高橋座長**

今の説明に対し、質問、意見がありましたらお願いします。

## 内船構成員

質問です。資料4-2ですが、それぞれに対応させていた施策の方向がないのですが、不必要ということで削っているのか。

## 笠原主査（事務局）

はい。あくまでも「人づくり」を進めていくうえでどのような事業かという見せ方になっている。マスタープランは大きく4つの柱があり、人づくりから始まり連携まであるのですが、人づくりを進めていく取り組みとしてこのようなものがあるという位置づけになる。これをどこに出すかと言うと、あくまでも外向け。市はこのような取り組みをしていますということで、庁内に働きかけるものではなく、外に働きかけるものであれば、施策の方向よりも大きな枠組みで見せた方が分かりやすいと考え、施策の方向は取り外している。情報収集の段階でのデータ上は存在している。施策の方向に位置づけた事業として年次報告書の情報をもらったもののうち、実際公表すべき部分だけをここに入れている。情報収集の中でない項目として「対象」が年次報告書の中には出てこないのので、ここは改めて整理したうえで、各担当部局に誰が対象かを確認してこのイメージとなる。

## 内船構成員

施策の方向をあげずに済むので、これまで施策の方向一つ一つに対応をつけていたので重複していたが、圧縮できるというか、整理できるということか。今回もマスタープランの年次報告書を拝見したときに、10ページの博物館が担当している天神島臨海自然教育園に対する項目が11ページの同じ2番の環境に関する取り組みがあがっており、異なる施策の方向にぶら下がっている同じ事業ということで重複しているのですが、これが集約され整理される考え方でいいのか。

## 笠原主査（事務局）

はい。ただし、人づくりにもなるし、場づくりにもなる、同じ事業が幾つもの柱、場合によっては全てに関する場合には全部に掲載する。そうでないと、この事業は一つしかやらないと読み取られてしまうので役所的には再掲というかたちになるが、一つの柱の中では少し整理されてくると思う。

## 高橋正明構成員

公表のスケジュールは前年度の報告をもって作成するとのことなので、発行が7月下旬ということは結局事業の実施は8月から3月までの間しかできないのかと思う。4～6月、夏休みを使うような事業はこの中にどのように盛り込まれるのか。スケジュールがもう少し上手い方法はないか。年度で決まるので前年度のものを次の年の4～6月にするというような計画は難しいのか。



### 笠原主査（事務局）

内部の事情を説明すると、同じ部局に何度も同じことを聞かないようにしたい。資料集の36ページをご覧いただくと、これは27年度版ですが27年度予定を、今年の3月に公表したのが実態です。27年度が終わっても、実際に情報収集して整理し、26年度実績と27年度予定を27年度末に公表しているのがこの年次報告書です。この内容を各部局に照会していますが、情報の整理が5月中旬からスタートするので、28年度予定は5月に初めて情報収集を行うことになってしまいます。

### 高橋正明構成員

よく分かりました。

### 笠原主査（事務局）

「施策別推進事業一覧」では予定事業を載せ、予定した結果が年次報告書に結びつくように整合を図りたい関係で同じ情報を使いたいところがある。まずスタート時期は5月上旬から下旬。今回初めてこの作業を行うので、少し余裕はみているが、2カ月くらい早まるということは難しい。4月から4カ月間は予定と言いながらも終わっている事業もその中に書き込まれていることになる。8月以降については確実に予定ということで、本当は年度始めに今年の予定ですと12カ月分を出せばいいが、この年次報告書の完成を待っていると遅いので、それより少しでも前倒しに整理できるように試してみたいというのが今回のスケジュールとなっている。

### 米田構成員

4月から6月で実施していたということは決定していたということになるのか。

### 笠原主査（事務局）

6月の時点で既に事業が終わっているものも予定の枠組みの中で落としていくので、具体的な内容が書ける。これからやる予定のところは詳細が決まっていないので大雑把な内容になる。その差は出てくると思うが今のところその差をつけることは考えていない。例えば予定枠に「4月に実施済み」と載せるとより分かりやすいかもしれないが、そこまでは考えていない。

### 高橋座長

確認ですが、資料4-2が何枚か出来たらホームページで公表となっている。ペーパーで配付はしないということによろしいか。

**笠原主査（事務局）**

現在、紙での配付は考えていない。

**高橋座長**

わかりました。それでは次の議題に移ります。

**◆議題3 平成28年度活動者向け人材育成講座について**

〔要旨〕

今年度実施する人材育成講座について、その内容や構成を議論する。全2回で、第1回目は座学やフィールドワークを交えた講座、第2回目は見学を中心とした企業等における環境の取り組みを考えている。

**高橋座長**

報告1で説明のあった、8月10日の天神島臨海自然教育園の講座は、これとは違うのか。

**笠原主査（事務局）**

最初に報告した天神島臨海自然教育園の研修は、学校の先生の夏休みの研修の講座として報告した。こちらは、環境活動者向けの講座になる。

**高橋座長**

こちらの案の2つについてということか。事務局としては、本日ここでテーマ2つについて具体的な内容を詰めたいということか。

**笠原主査（事務局）**

まずは、昨年通り2回の構成でいいのか。それで良かった場合、2回の構成の具体案をあげたが方向性としてどうかのご意見をいただきたい。

**高橋座長**

まず大枠として方向性はどうか。もう少し見方を変えたご提案があればお願いします。

特になければ大筋ではこれで良いので、事務局から副案があれば紹介していただくことでよろしいか。事務局用意はありますか。

**笠原主査（事務局）**

それぞれ具体案を提案させていただいた。これだけではわかりづらいと思うので、更に細かい内容を補足すると、第1回目の具体案の「自然・人文博物館学芸員とのタイアップ」

は、まだ博物館とは調整していませんが、この場で後押しいただければ、調整をしていきたいと思っている。具体的な場所としては、アンケートで希望が多かった「天神島臨海自然教育園」で何かできればと思っている。天神島は先程の学校の先生向けの研修で報告したが、今年は50周年ということで、学芸員さんも先生向けのフィールドワークに向けて色々ご用意していただくので、対象者は変わるが何度も手間を掛けていただくのは大変なので、その部分を活用してもらえるのではと思っている。また、天神島はビジターセンターもあり講座もできる、駐車場もある程度確保できるなどの立地条件も整っているため、第1回目の講座は天神島臨海自然教育園を考えています。第2回目の具体案の「市内研究施設」は環境関係で関わりのありそうなところは、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、港湾空港技術研究所、電力中央研究所があります。この3つの中で、電力中央研究所が会長になっている「横須賀市地球温暖化対策地域協議会」が今年10周年を迎える節目の年になっていることと、あちらの施設が研究棟を新たに建設され、地域の皆さんに広く知ってもらえればという話もある。今まで企業の紹介を行ってきていたので、市内に研究施設があり、先程報告した協賛企業のアンケートの中でも電力中央研究所はポスターコンクールの協賛企業になっていただいております、地域の学校にも環境教育の派遣などの取り組みをしているので、その取り組みを見ていただくのはどうか。今まで自然系が多く、前は東京ガスだったが、また違った目線で電力中央研究所の施設はいかがかと思う。皆さんの意見を聞き、よろしければその方向で進めていきたい。事務局の具体案の更なる具体案はそのようなことを考えている。

#### 高橋座長

いかがでしょうか。これまで平日の開催でしたね。土日ではないですね。具体的な説明があったが、天神島は別として企業は土日は休みなので平日になると思う。

#### 高橋正明構成員

私は今の提案に大賛成である。特に電力中央研究所の関係は温暖化対策ということで、パリ協定も決まりましたし、2050年にはCO<sub>2</sub>の排出は80%減で再生可能エネルギーや省エネが非常に大事になるので、その辺を全面に出し電力中央研究所の見学は非常に良いと感じた。

#### 高橋座長

内船構成員、天神島の件でいかがか。

#### 内船構成員

今年は天神島が開園し50周年の記念すべき年なので、博物館本館でも7月から9月に特別展示を行う。天神島の要素を博物館本館でも期間限定で展示しつつ、天神島のフィール

ドもある状態。博物館としては、博物館本館で開催しても、天神島で開催してもどちらも面白いかと思う。天神島は夏の週末は非常に混み合うので平日開催が良いかと思う。

#### 高橋座長

異論がなければ、いい提案ですので事務局に一任したいと思う。よろしいか。では、ただ今の説明で進めてください。

本日の議題はこれで終わります。事務局から連絡事項はありますか。

#### 笠原主査（事務局）

事務局の連絡事項の前に「森づくりフォーラム」についてご案内をお願いします。

#### 野崎構成員

自然ふれあい楽校から「第5回三浦半島森づくりフォーラム」のチラシを配付した。7月の開催で5回目になりますが、森づくりに関するフォーラムをずっと続けている。今回は特に講演にきてくださる講師の方が「森づくりを通して森から学ぶこと」という演題をつけてくださっているが、森づくりと森林教育というかたちで別の場所で講演されているのを知り、これは環境教育の現場と言うよりはむしろ森の中での環境教育の方法や効果について話されていたので、改めて三浦半島に来ていただき、緑の多い横須賀の中で森づくりと環境教育がどのくらい発揮されるのかということをお話していただきたくこのようなテーマにした。いつも7月にサマースクールを行い、色々なプログラムがあるが今回はフォーラムだけのチラシを別に作りました。と言うのは、学校の先生方や地域の環境活動をしている団体の方でもいいが、環境教育に携わっている方、あるいはこれから活動を考えている方にもぜひ聞いていただきたいと思った。学校にも配付させていただきたいと思いますが、このネットワーク会議の方にもご覧になっていただきたいと思い配付させていただきました。夏休みに入ってすぐのフォーラムですが、もしお時間があればぜひ来ていただき、ご意見などを聞かせていただきたい。話し合いの時間も少し設けているのでよろしくをお願いします。

#### 高橋座長

16日から夏休みか。

#### 橋構成員

学校によって違うかもしれない。

#### 高橋座長

ぜひ、参加していただきたいと思う。

## 野崎構成員

横須賀 E C O 大賞の武山小学校も、みどりの森づくりの活動を環境教育としてしっかり活用されていることが評価されたと思う。あのよう、みどりに恵まれた学校はかなりあると見受けられる。どこか遠くに行って森づくりの活動をするのではなく、学校の周囲や自分の地域の周辺でもいくらでも教育の場があるということをぜひ聞いていただきたい。よろしく願いいたします。

## 高橋座長

ありがとうございます。では事務局からお願いします。

## 笠原主査（事務局）

事務局から3点、連絡事項があります。

1点目は先程もご覧いただいた「E C O 通信 21 号」(案)について、既に皆さまに送らせていただき確認、ご意見をいただく段階です。今日の内容を踏まえ何かあれば6月1日までに事務局に連絡をください。

2点目は教員向け環境学習講座については先程も説明したが、もう少し詳細が決まった時点で皆さまにもご案内させていただくのでご都合がよければぜひ参加していただきたい。

3点目は次回第21回の環境教育・環境学習ネットワーク会議は10月を予定しています。皆さまの日程を後日調整させていただきますので、よろしく願いいたします。事務局からの連絡は以上です。

## 高橋座長

内船構成員に教えていただきたいが、今日、馬堀に行ったところ馬堀自然教育園は市の天然記念物になったと聞いた。今年なったのか。

## 内船構成員

今年の2月です。横須賀市の文化財ということで新たに博物館関係では、人文系の民族資料の一部と、文化財という枠の中に天然記念物というカテゴリがあるがここに馬堀自然教育園の自然というかたちで登録されました。

## 高橋座長

立派なポスターもあったが、その割にはあまりPRがされていないようで今日初めて知りました。

## 野崎構成員

来年は馬堀自然教育園に行かなければいけないですね。

### 内船構成員

馬堀自然教育園は2019年に開園60周年を迎えますので、そこも一つの節目かと思えます。

### 高橋座長

馬堀中学校側の崖を崖地対策で木を切ったのですごく明るくなり、猿島が見えるようになった。

### 内船構成員

元々、教育園の中には神社があった。今は防大の敷地の中に移してしまっただが、まだ鳥居などは残っている。座長が言うとおりに、中学校側傾斜地を整備し、木を切ったことにより東京湾が一望できるビュースポットが新たにできた。馬堀にお越しの節は、階段を上る途中で振り返っていただくと中学校越しに猿島が見える眺望になっている。

### 野崎構成員

整備したことにより、自然の変化や植生が変わった、生物の観察に変化があったことはあるか。

### 内船構成員

元々その斜面は、人が歩けない傾斜地で、境界地で園路が設定されていない場所だったので、特に調査はしていない場所だった。まずは中学校側への安全配慮が最重要項目だった。そこに関しては水辺もなく特に生物的に大きな影響があったかと言うと、元々調査をしていないので特になんかというかたちです。

### 高橋座長

中の自然に対しては影響が及ばないところだと思う。馬堀自然教育園、これまで行ったことがない方はぜひ一度行っていただきたいと思う。これからホタルが観られるか。

### 内船構成員

そうですね。この研修プログラムで夕方に教育園に集まり、夜、ホタルを見て帰るというのも面白いかもしれない。今後将来的にご検討いただけたらと思う。

### 高橋座長

それでは、第20回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終わります。どうもありがとうございました。